

ORACLE CONTENT DATABASE SUITE

主なアプリケーション

- エンタープライズ・アプリケーション向けに統合されたコンテンツ・リポジトリ
- ドキュメントの共有および公開
- 契約およびポリシーの管理
- ファイル・サーバーの統合

業界をリードする *Oracle Database* 上に構築される *Oracle Content Database Suite* によって、組織はセキュアで非常にスケーラブルな単一のリポジトリにおける大量の非構造化コンテンツの制御および管理が可能になります。*Oracle Content Database Suite* は、ドキュメントの共有やファイル・サーバーの統合などの中核的なドキュメント管理機能をサポートします。*Oracle Content Database Suite* で、ドキュメント、スプレッドシート、および固定資産を保存することによって、大量の非構造化コンテンツの制御を実現します。

Oracle Content Database Suite におけるコンテンツ管理

すべてのビジネスにおいて、急速に増大化する非構造化コンテンツの保護と管理、コンプライアンス・イニシアティブに関する規制順守、非構造化データのビジネス・プロセスへの統合に関する課題が表面化しています。優れた設計のコンテンツ管理ソリューションを使用すれば、ユーザーの生産性の向上、規制順守への対処、ビジネス・リスクの削減、およびコストダウンの推進が可能になります。ただし、従来のコンテンツ管理ソリューションでは、完全なエンタープライズ・コンテンツ管理機能を使用して作業をするユーザーよりも広範囲なユーザーのコミュニティへ、中核的なドキュメント管理サービスを拡張できませんでした。*Oracle Content Database Suite* は、コンテンツのセキュリティ、バージョン・コントロール、ライフ・サイクル管理、ファイル・サーバーの統合など、重要なドキュメント管理機能を提供します。複数のファイル・サーバーを統合することによって、組織におけるコスト削減、管理プロセスの効率化、およびビジネス要件の変化への迅速な対応によるビジネスの即応性の実現を支援します。

中核的なドキュメント管理サービス

Oracle Content Database Suite は、強力なファイルおよびドキュメント管理機能を提供します。ユーザー管理とセキュリティ管理には、フォルダおよびドキュメント・レベルでのロールベースのアクセス制御と、グループおよび個人ユーザーによるアクセス管理が含まれます。バージョンング、属性、レコード管理などの情報のライフ・サイクルを制御する動作は、フォルダごとに定義されたポリシーを使用して指定でき、手動または自動でコンテンツに適用できます。ユーザーに追加の実手順を覚えるよう要求する代わりに、自動化されたポリシーを活用することで、これらの重要なライフ・サイクル管理機能は非常に実用的になり、ユーザーが導入しやすくなるよう支援します。

Oracle Drive クライアントを活用することで、*Oracle Content Database Suite* を使用するユーザーは、Microsoft Windows Explorer、Microsoft Word、Microsoft Excel などのデスクトップ・アプリケーションおよび Microsoft Outlook や Louts Notes などの電子メール・クライアントのコンテンツに簡単にアクセスでき、デスクトップでの作業をシームレスに統合できます。結果として、ユーザーはファイル管理や他のユーザーとのファイル共有を簡単にデスクトップで直接管理できます。また、*Oracle Drive* の特長はシームレスなオフラインのコンテンツ管理機能であり、ネットワークに接続していないユーザーは、容易にコンテンツへアクセスし、管理できます。

主なソリューション

- 複数のファイル・サーバーの置き換え
- データベース・リポジトリを使用したコンテンツ対応の複数のビジネス・アプリケーション
- 紙や電子ドキュメントのアーカイブ
- ドキュメントの管理および公開

ファイル・サーバーの統合

Oracle Content Database Suite を使用すれば、組織は管理コストを削減し、情報アクセシビリティを向上させるために、複数のファイル・サーバーおよびアーカイブを統合できます。Oracle Database は、業界でもっともスケーラブルで信頼できるセキュアな最速のデータベースであり、顧客は実証済みのベスト・プラクティスを使用しながら非常に大量の非構造化コンテンツを簡単に管理できます。大量のサイロ・ファイル・サーバーを Oracle Content Database Suite に置き換えた組織は、重要な情報リソースを集中化し、ユーザーは分散しているコンテンツに容易にアクセスできます。

Web サービスによるコンテンツの変換および容易なアクセス

Oracle Content Database Suite は、およそ 400 種類のファイル形式を HTML、XML、GIF、PDF などのインターネット対応の形式に簡単に変換でき、Web サイト、デスクトップ、単純なシンジケート・フィード、モバイル機器、Web サービスなどを経由して、コンテンツを配信できます。さらに、Oracle Content Database Suite は Java および .NET 準拠の Web サービス API を使用して、プログラムでアプリケーション機能へ完全にアクセスできます。これらの API を利用して Oracle Content Database Suite を他のシステムとアプリケーション（Oracle E-Business アプリケーションや Oracle Portal など）を統合でき、容易にアプリケーション機能の自動化および拡張を実現できます。

コンテンツ対応プロセスの自動化

Oracle Content Database Suite は、オープンで標準ベースの強力なツールによるワークフロー・プロセスの自動化をサポートしており、ワークフローを特定のフォルダに関連付け、これらのフォルダに対するドキュメントのチェックインや削除などのイベントが発生した際に、自動的にワークフローを起動する強力な機能を提供します。このようなイベント・ドリブンのワークフローは、レビューや承認サイクルを起動し、ドキュメントの新バージョンがチェックイン済みであることをユーザーに通知する際に使用できます。また、管理者の許可なしにフォルダからドキュメントを削除できないようにする場合などにも使用できます。さらに、ワークフローから Oracle Content Database Suite の Web サービス API を呼び出して、幅広い一連の管理活動を実行できるため、広範囲にわたるビジネス・プロセスの自動化を実現できます。

Copyright 2007, Oracle. All Rights Reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否定し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、および Siebel は、米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。